

# 教育課程・保育の全体的な計画編成における課題

～幼・保・大連携保育研究①～

## Challenges in Planning of Childcare Curriculum

- Collaborative Research among Kindergarten, Childcare center and College ① -

吉田 美恵子、安見 詠子、宮崎 淳子

キーワード 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」改訂  
幼保大連携研究 保育者アンケート調査

### I はじめに

平成27年4月から子ども・子育て支援新制度施行後も、保育をめぐる状況や子どもを取り巻く環境は変化し、保育者の役割も多様化・複雑化している。平成29年3月31日「保育所保育指針」が改定、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」が改訂となり同時告示となった。いずれも1年間の周知期間を於いて平成30年4月1日から施行される。幼保連携型認定こども園教育・保育要領に於いては、前回の平成26年（初めての告示）から3年での改訂となった。文部科学省は今回の幼稚園教育要領、小中学校学習指導要領等の改訂のポイントの中で、育成すべき資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」、三つの柱として「知識・技能」=知識及び技能の基礎（幼児教育）、「思考力・判断力・表現力等」=思考力、判断力、表現力等の基礎（幼児教育）、「学びに向かう力、人間性等」=学びに向かう力、人間性等（幼児教育）を挙げている。又、「社会に開かれた教育活動」の実現「カリキュラム・マネジメントー教育課程を軸とした学校教育の改善・充実ー」の実現として、よりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育もうとするものとし、幼稚園から小中学校及び高校、大学への学びの連続性を促している。このことを踏まえ基礎を培う保育所・幼稚園ではこの三つの柱を基盤にカリキュラム・マネジメントに努めなければならない。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領の全部を改正する告示の公示について、内閣府、厚生労働省、文部科学省（通知）の中で、1.改正の概要（1）基本的な考え方に於いて以下のように記されている。

#### 【新保育所保育指針との整合性】

- ・乳児期及び満1歳以上満3歳未満の園児の保育に関する視点及び領域、ねらい及び内容並びに内容の取扱いを新たに記載
- ・近年の課題に応じた健康及び安全に関する内容の充実、特に災害への備えに関してや教職員間の連携や組織的な対応に強調して記載

#### 【新幼稚園教育要領との整合性】

- ・幼保連携型認定こども園教育及び保育において育みたい資質・能力を明確にしたこと
- ・5歳児終了時までで育ってほしい具体的な姿「幼児期の終わりまでで育って欲しい姿」を明確にしたこと
- ・園児の理解に基づいた評価の実施、特別な配慮を必要とする園児への指導を充実させたこと
- ・近年の子どもの育ちをめぐる環境の変化等を踏まえ、満3歳以上の園児の教育及び保育の内容の改善を図り充実させたこと

## II 問題と目的

これまでは各園の保育・教育理念のもと、入園～卒園までの子どもの育ちを見通した計画を、保育所では「保育課程」幼稚園では「教育課程」と称され作成されていたが、今回の改訂から、保育所や認定こども園では「全体的な計画」と変更（幼稚園の教育課程は現行のまま）された。子どもの発達年齢の区分とねらい及び内容の変更、5領域のねらいの変更、幼児期の終わりまでに育てて欲しい子どもの姿が明確にされた事を鑑みると、教育課程や全体的な計画に於いてはこれまでに作成された計画を基盤に当然計画の見直しや修正が行われる事となる。しかし、問題と思える一点目は保育の根幹をなす教育課程や保育の全体計画に対する、一人一人の保育者の意識の低さである。わずかに改善傾向にあるものの、保育者が自園の教育課程や全体的な計画を（保育課程）把握出来ていない事、あるいは存在さえ知らない保育者が未だ多く、全体的な計画の見直しや修正も殆ど行われていない実状である。二点目は、全体計画作成や編成に重要な園内協議のあり方についてである。指針や要領を確認し、目の前のこどもの育ちを確かめながらの園内協議は必要不可欠であり、園の保育理念を基に各年齢を担当する保育者のこどもとの関わりや育ちについて真摯に協議が進められなければならない。協議する上では、保育の記録や、人的環境を含む園内の環境も大きく関係し、保育者同士が主体的に意見交換できる状況が前提となる。そして三点目は保育全体に関わってくるキャリア（経験値等も含む）による保育者の保育指標が必要という点である。園の子どもや保護者、保育者同士の関係性において示されていく指標が、キャリア段階によって違ってくることを踏まえ、各園なりの保育の全体計画と同時に保育者の保育者としての成熟過程を示す指標も必要となるという点である。

本学には、幼稚園教諭二種免許取得後に更に2年間学び、幼稚園教諭一種免許取得を目指す専攻科がある。専攻科生は、毎日のインターンシップを通して得たこどもの実態を踏まえ、2年次の「カリキュラム特論」の授業の中で保育の全体的な計画（保育課程）作成を試みている。本年度行った「カリキュラム特論」の授業公開、認定こども園との保育活動交流、全国国公立幼稚園・こども園会九州大会（長崎）、第3回佐世保市幼児教育・保育研究会における研究の経緯、指導助言、キャリアアップ講習等を通して、保育活動全体に於いて育みたい資質能力が保育の全体の計画にどのように組み込まれ、子どもの育ちに繋がるのかを目的として探求したいと考える。

## III 研究の方法

- 1 保育実践現場と養成校の現状を通して（養成校での3法令改訂理解と保育現場への繋がり）
  - (1) 幼保連携型認定こども園、保育実践現場の課題の抽出
    - ① 幼保連携型認定こども園における学生の観察・実践と成果
    - ② 専攻科保育専攻授業「カリキュラム特論・保育の全体的な計画作成」公開授業参観
    - ③ 幼保連携型認定こども園における保育の全体計画の見直し
  - (2) 専攻科保育専攻授業「カリキュラム特論・保育の全体的な計画作成」公開授業を通しての改善点
    - ① 前期公開授業カリキュラム特論の取り組み方法 = 領域人間関係（平成29年6月30日）
    - ② 学生の授業状況と変化、改善点
  - (3) 認定こども園教育・保育要領改訂後の保育の全体の計画編成の構図モデル作成
- 2 こども・保育者が主体となる保育実践と園内研究のあり方（園内研究の事例をもとに探求）
  - (1) 幼保連携型認定こども園の保育内容とこどもの中に育つ力について
  - (2) 第58回九州国公立幼稚園・こども園会教育研究大会（長崎）研究過程から
  - (3) キャリアによる保育者の保育の視点
- 3 第3回佐世保市内幼児教育・保育研究会におけるアンケート調査結果と考察

#### IV 結果及び考察

##### 1 保育実践現場と養成校の現状を通して

###### (1) 幼保連携型認定こども園保育実践現場

(文責:安見詠子 宮崎淳子)

###### ① 幼保連携型認定こども園における学生の観察・実践と成果

○多忙な保育現場ではあるものの、学生の指導・学生との協議を実践することにより、現場の保育者自身の保育のあり方を振り返るよい機会となること、又、学生にとってはスキルアップのチャンスとなり双方向性の成果が得られた。

○学生は「子どもの育ち」を表面的に「〇〇ができた」「〇〇ができない」式にとらえがちであり、現場も学生も園内協議を充実させ、新要領に示された大綱化された子どもの姿を具体的な子どもの姿として理解していく必要性を感じた。

###### ② 専攻科保育専攻授業「カリキュラム特論・保育の全体的な計画作成」公開授業参観

○養成校における研究内容に現場の保育者がふれることにより、全体的な計画は常にチェックを行い、実態に即したのものにするための見直しをしていく必要性を強く感じ、大変良かった。

###### ③ 改訂後の、幼保連携型認定こども園における保育の全体計画の見直し

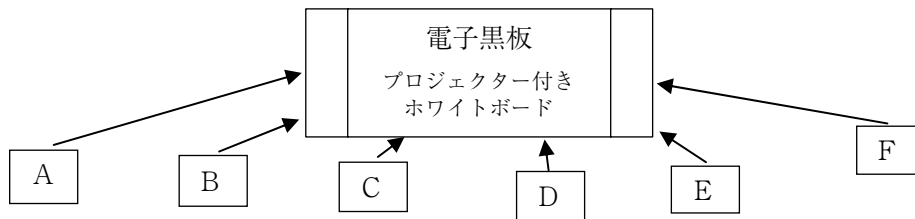
○公開授業のカリキュラムワーキングを参考に幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を踏まえてめざす子ども像を見直したが、全体計画の見直しが表面的になっているきらいがある。

###### (2) 専攻科保育専攻授業「カリキュラム特論・保育の全体的な計画作成」公開授業について

###### ① 前期公開授業カリキュラム特論の取り組み方法 = 領域人間関係 (平成29年6月30日)

あるがままの姿が受け入れられ安心感を得た子どもたちは園というふさわしい環境の中で、自分だけではない他者の存在に気づいてくる。そしてつまずきや葛藤を経験し自分の気持ちに折り合いをつけながら他者を受け入れ、共に過ごすことの喜びを抱くようになる。その発達の道筋を考え、子どもがよりよく育つ方向が見えるように計画を立案していく。

《授業の方法》



(図-1 授業パソコン入力)

###### ② 学生の授業状況と変化

\* A～Fの学生が「人間関係」のねらいに照らし合わせて心情・意欲・態度の3項目を担当の年齢の子どもの姿を通して考え、パソコンに入力していく。

\* 養護(生命の保持・情緒の安定)と教育の5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)のねらいを保育課程作成の最初に打ち込んでいたが(旧教育・保育要領より)平成29年3月に告示された資料を使う事により、ねらいの変更点に学生が気づく。そこで、変更点を文言の中に見出し、育てたい子どもの姿を更に明らかに認識していく。

\* 学生が送信した領域の年齢別の全体像が電子黒板に表示されるので、発達の道筋を全員で確認し各年齢の担当者が具体的な子どもの姿を発表しながら加筆、修正を行う。

\* 参観者の園長先生・主任の先生より実践現場からのアドバイスを受ける。

◎学生は完成した保育課程をもとに、改訂された要領・指針の内容を読み取り、更に計画の構成の変更が必要であることに気づき保育において育みたい資質・能力を確認した。

保育理念	*理事長・園長が園の歴史的背景や理念を伝え、各園の育てたい子どもの姿の理念を共通理解することが大切							
保育方針	*保育理念を達成させる為の方針 <b>共通理解しておくことが重要</b>							
保育目標	*具体的な保育の目標							
			こどもの年齢区分と保育内容					
	領域	ねらい	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
養護	生命の保持	④項目のねらい	学生A	学生B	学生C	学生D	学生E	学生F
	情緒の安定	④項目のねらい	学生A	学生B	学生C	学生D	学生E	学生F
教育	健康	①心情②意欲③態度	学生A	学生B	学生C	学生D	学生E	学生F
	人間関係	①心情②意欲③態度	学生A	学生B	学生C	学生D	学生E	学生F
	環境	①心情②意欲③態度	学生A	学生B	学生C	学生D	学生E	学生F
	言葉	①心情②意欲③態度	学生A	学生B	学生C	学生D	学生E	学生F
	表現	①心情②意欲③態度	学生A	学生B	学生C	学生D	学生E	学生F
食育	学生各自							
行事地域交流	学生各自							
安全対策	学生各自							

(図-2 平成20年度保育所保育指針告示に基づく保育課程)

平成29年度告示 幼保連携型認定こども園「全体的な計画」編成の構図モデル(表-1を基礎とする)

保育理念	*理事長・園長が園の歴史的背景や理念を伝え、各園の育てたい子どもの姿の理念を共通理解することが大切									
保育方針	*保育理念を達成させる為の方針 <b>共通理解しておくことが重要</b>									
保育目標	*具体的な保育の目標を分かり易く <b>こどもの中に育つ力「資質・能力の3つの柱」をふまえて記入する</b>									
発達区分	ねらい					保育の内容				
乳児	健やかにのびのびと育つ		① ② ③項目			0歳児担当で記入していく				
	身近な人と気持ちが通じ合う		① ② ③項目			0歳児担当で記入していく				
	身近なものに関わり感性が育つ		① ② ③項目			0歳児担当で記入していく				
	養護				教育(5領域)					
	生命の保持	情緒の安定	健康	人間関係	環境	言葉	表現	食育	安全対策	
ねらい	1歳児	ねらい④項目	ねらい④項目	①心情	幼保連携型認定こども園教育・保育要領からねらいを記入する			①心情		
	2歳児	幼保連携型認定こども園教育・保育要領から記入する		②意欲				②意欲	②意欲	②意欲
内容	1歳児	1歳児担当	者が保育内	容を記	入して	いく...	...	...	...	...
	2歳児	2歳児担当	者が保育内	容を記	入して	いく...	...	...	...	...
ねらい	3歳児	ねらい④項目	ねらい④項目	①心情	①心情	①心情	①心情	①心情		
	4歳児	幼保連携型認定こども園教育・保育要領から記入する		②意欲	②意欲	②意欲	②意欲	②意欲		
	5歳児			③態度	③態度	③態度	③態度	③態度		
内容	3歳児	3歳児担当	者が保育内	容を記	入して	いく...	...	...	...	...
	4歳児	4歳児担当	者が保育内	容を記	入して	いく...	...	...	...	...
	5歳児	5歳児担当	者が保育内	容を記	入して	いく...	...	...	...	...
幼児期の終わりまでに育って欲しい姿				10の姿を念頭に記入していく						

(図-3 筆者モデル作成)

2 こども・保育者が主体となる保育実践と園内研究

(1) 幼保連携型認定こども園の保育内容とこどもの中に育つ力について

認定こども園に於いては、0歳から卒園までを見通した保育の全体計画作成となるが、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている内容を年齢別に繋ぐと下記のようなになる。「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力、表現力の基礎」「学びに向かう力人間性」を培う為には、下記の表A:ねらい及び内容、基本的事項を把握しB:領域に示されているねらいをC子どもの発達の特徴を踏まえながら達成していき、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」が見られるようにというものであり、保育所保育指針・幼稚園教育要領もこの「育って欲しい姿」は共通して示され、どの施設で幼児期を経験しても小学校への接続がスムーズになされるであろうとの期待がある。

(表-1:幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基に筆者が整理して作成)

小学校へのスムーズな接続		
幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿		
ア健康な心と体 イ自立心 ウ共同性 エ道徳性・規範意識の芽生え オ社会生活との関わり カ思考力の芽生え キ自然との関わり・生命尊重 ク数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ケ言葉による伝え合い コ豊かな感性と表現		
年齢	A ねらい及び内容 基本的事項	B 領域
C こどもの 年齢区分	5歳(年長)	健康 人間関係 環境 言葉 表現
	4歳(年中)	
	3歳(年少)	
	2歳	健康 人間関係 環境 言葉 表現
	1歳	
0歳	健やかにのびのびと育つ 身近な人と気持ちが通じ合う 身近なものとの関わり感性が育つ	
子どもの中に育つ力「資質・能力の3つの柱」		
知識及び技能の基礎	豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分ったりできるようになったりする	
思考力・判断力、表現力等の基礎	気付いた事や、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする	
学びに向かう力、人間性等	心情、意欲、態度が育つ中でよりよい生活を営もうとする	

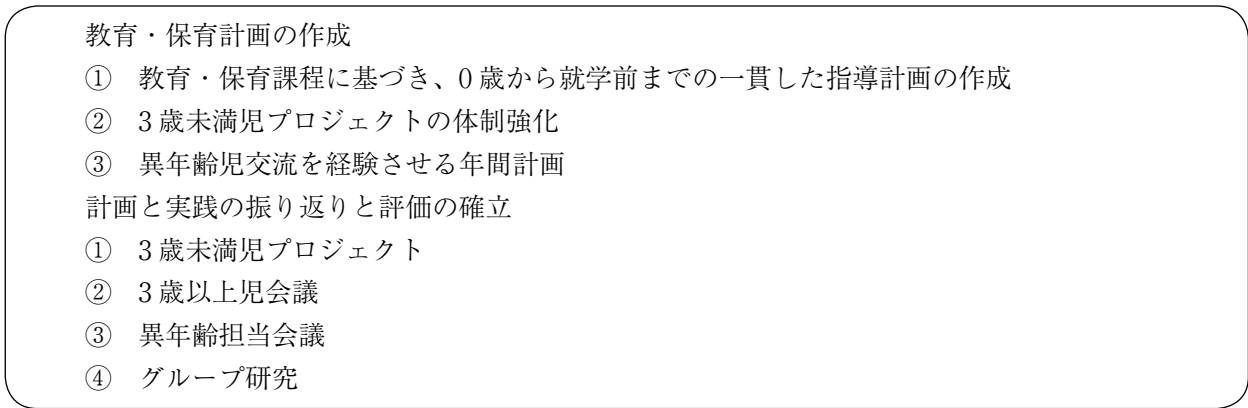
今回の改訂で、乳児保育、1歳～3歳未満児保育の充実が図られBで示した領域の項目やねらいが丁寧に記述されている。全体的な計画の中にも0歳の3領域、1歳～3歳未満の5領域、3歳以上の5領域のそれぞれ

のねらいを組み込むことになる。又、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿が、自園の5歳児の姿にどのように組み込まれているかを検証する必要がある。

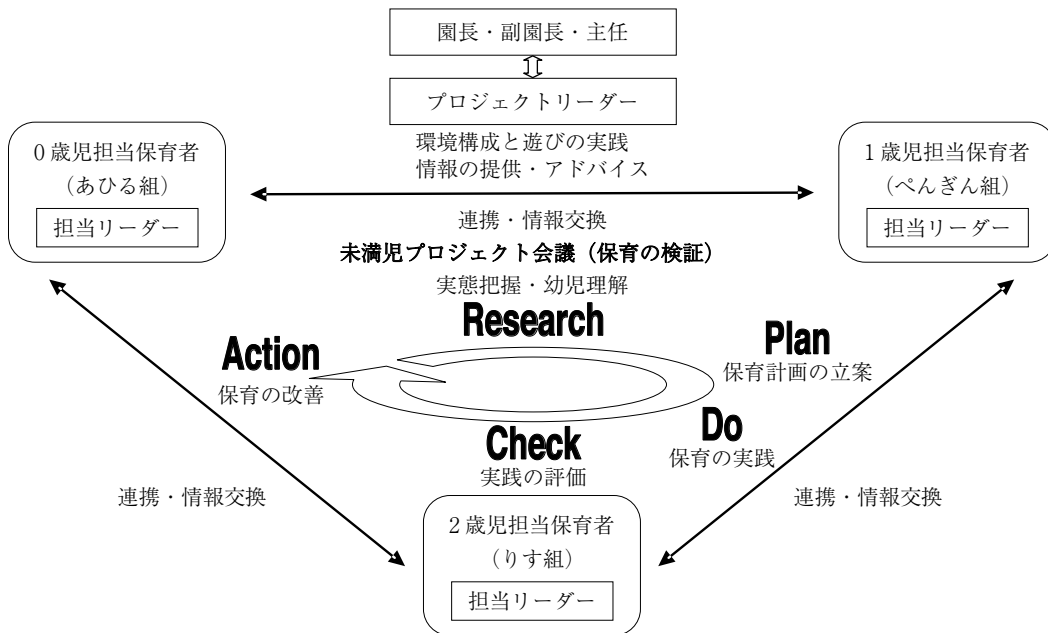
(2) 第58回九州国公立幼稚園・こども園会教育研究大会（長崎）研究過程から

全体的な計画の構成をする上でポイントとなるのが保育者自身の資質・能力である。保育担当の各年齢別の記録を持ち寄り子どもの姿を通して協議されていくことになるが、その方向性や総括を行っていくキャリアの存在が大切となる。平成29年11月17・18日開催の全国国公立幼稚園・こども園会九州大会（長崎）で筆者は分科会での指導助言を行った。研究発表に先立ち、福岡県E市のSこども園を訪問し全員の先生方と協議の機会を得た。長年続いた公立幼稚園・保育所から認定こども園として移行した時点での悩みから、園内でプロジェクトを立ち上げ子どもの育ちを共有しながらの研究推進の貴重なプロセスを見ることが出来た。研究テーマ「遊びや生活を通して人とかかわりながら育ち合う子どもの育成」に対して以下のような研究体制を作り、幼稚園からこども園への移行に際しての保護者の不安を受け止め保育の計画に組み込みながら、3歳未満児プロジェクトへの挑戦が始まった。今回の改訂で初めて示されている3歳未満児の保育の内容を充実させたことに合致する取り組みである。

以下は福岡県E市Sこども園 資料より研究体制を示した図である。



〔Sこども園の0歳から就学前までの一貫性のある教育計画及び保育の実践〕



(図-4 平成29年11月18日 Sこども園提案発表資料より)

この研究発表の成果として①子ども理解の共有②職員間の連携③保護者間の連携④保護者と保育者の連携があげられ、①～④の実践例・考察と共に深まりが見られたことが発表されたが、園内研修では保育者一人一人の主体性が大きな意味をもち、リーダーとしての役割が有効に検証されていた。

(3) キャリアによる保育者の保育の視点、

平成29年度長崎県ではいち早くキャリアアップ研修が実施された。又、全国保育士会では「保育士等キャリアアップ研修ハンドブック」を発刊している。キャリアアップ研修は保育現場におけるリーダー的職員の育成に関する研修分野を定め、その修了への評価として給付加算によって処遇改善に繋いでいくこととなっている。全国保育士会では、この研修を体系化して、初任者から園長までの階層別の研修を行うことを提案しているが単に経験年数ではなく、一定の知識・技術の取得が求められている。

(表-2: キャリアアップ講習ハンドブックより、養成校は筆者追加)

階 層	業務内容	子どもへの保育実践
主任保育士・主幹保育教諭等管理的職員 【目安】 11年以上の職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○所長（園長）を補佐し、保育所・認定こども園等全体の職員管理、指導、評価など組織運営に携わる。</li> <li>○保育指導計画を評価する。</li> <li>○全体像を見つつ、職員に適切にアドバイスする。</li> <li>○所長（園長）補佐、指導計画の評価指導、自己評価の二次評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○組織として実践の評価</li> <li>○保育課程（全体の計画）の策定・評価</li> </ul>
リーダー的職員 【目安】 6年～10年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主任保育士・主幹保育教諭を補佐、一定の業務単位における職員の管理、指導、評価など、組織運営を補佐する。</li> <li>○地域の子育て支援の取り組みを担当する。</li> <li>○チームによる保育業務を支援・指導する。</li> <li>○自身の保育の特徴を認識、それを活用する。</li> <li>○リーダーは、職員の話を中心に聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○科学的・理論的根拠に基づいた保育実践</li> </ul>
中堅職員 【目安】 4年～5年目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初任者の指導をする。</li> <li>○保護者との連絡・調整を行う。</li> <li>○初任者と日々の業務を共有する。</li> <li>○リーダーや副主任との連携をすすめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育実践の構造化</li> <li>○PDCAサイクルに基づいて保育を実践する</li> <li>○カリキュラムマネジメント</li> <li>○保育を可視化し、発信（ドキュメンテーション等）する</li> </ul>
初任者 【目安】 入職～3年目まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常の保育業務、チームによる保育業務の経験を積む。</li> <li>○保育指導計画を策定する。</li> <li>○保護者との連携に基づく保育を行う。</li> <li>○保護者支援（言葉がけなど）を中堅職員の横で同席する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの発達・健康の理解と援助</li> <li>○保育課程（全体の計画）・指導計画に基づく保育実践</li> <li>○保育実践の向上（5領域）</li> <li>○指導計画の立案</li> <li>○保育の個別計画</li> <li>○記録のとり方、活かし方</li> <li>○応急手当等緊急時の対応</li> <li>○発達の気になる子や障害のある子への対応</li> <li>○保育所・認定こども園における食育の推進</li> <li>○保育のアセスメント</li> <li>○保幼小連携の理解</li> <li>○子どもたちの気持ちを考えた保育実践</li> </ul>
養成校	保育士資格取得・幼稚園教諭免許（一種、二種、専修）取得	

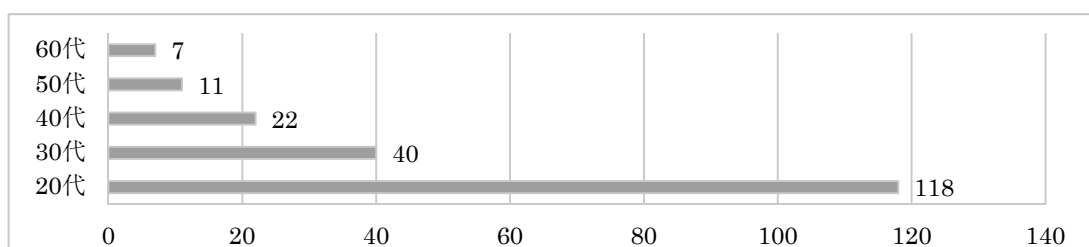
今回の要領や指針の改訂を受けて、養成校での学生育成も見直し改善が必要となる。保育実践に向けての論理を理解し子どもと向き合う基礎が備わっていない事踏まえて授業改善に努め、入職に希望を持ち、離職に繋がらない保育者としての資質を育まなければならない。

表-2を見ると養成校卒業後、入職から3年目までの初任者の保育実践内容は多岐にわたり、園の環境を受け入れ、12項目を目の前の子どもと奮闘しながら実践していかなければならない。実践現場では、快活に行動できる心身の強さと同時に保育技術を磨き、事務的業務もこなすというハードさが求められるが、必要業務項目なのである。自己管理能力と他者を受け入れながら自身のアイデンティティを高めていく姿勢が大切となる。中堅職員以降は初任者の12項目にプラスして、あるいは12項目を土台として次の階級に進むが、子どもだけでなく保護者の支援、効果的な保育者の指導・育成も加わる。

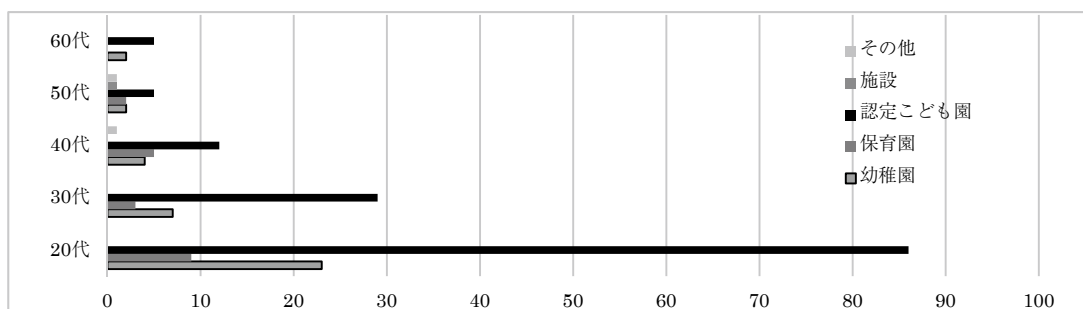
### 3 第3回佐世保市内幼児教育・保育研究会におけるアンケート調査結果と20代保育者を中心とした考察

平成29年12月26日アルカス佐世保に於いて、研究テーマ「遊びを通しての子どもの育ち」サブテーマ「子どもが夢中になって遊ぶ姿から」の研修会後にアンケートを実施した。

【①全体：参加者年齢別】 n = 198 参加者は20代が≒60%を占めていることを念頭に考察を進める。

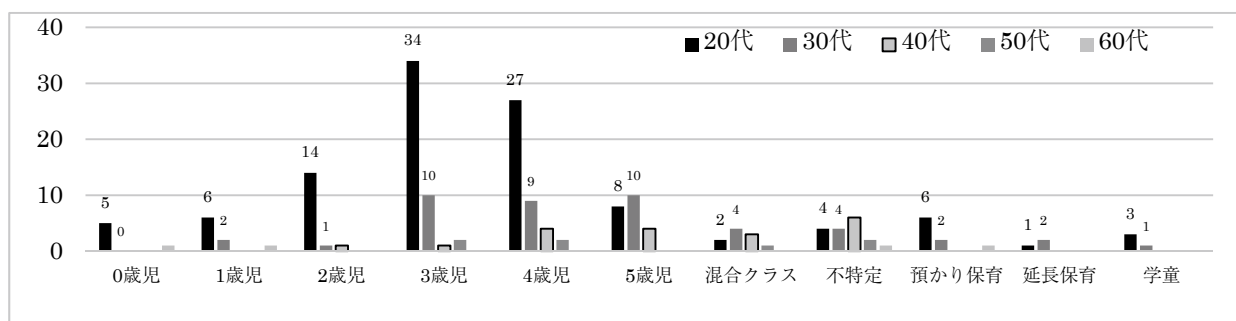


【②施設別：参加者年齢】 n = 198



幼稚園が冬休みに入っている時期に研究会が開催され、研究発表園が認定こども園であったことも施設別参加者数に影響している。

【③配属クラス】

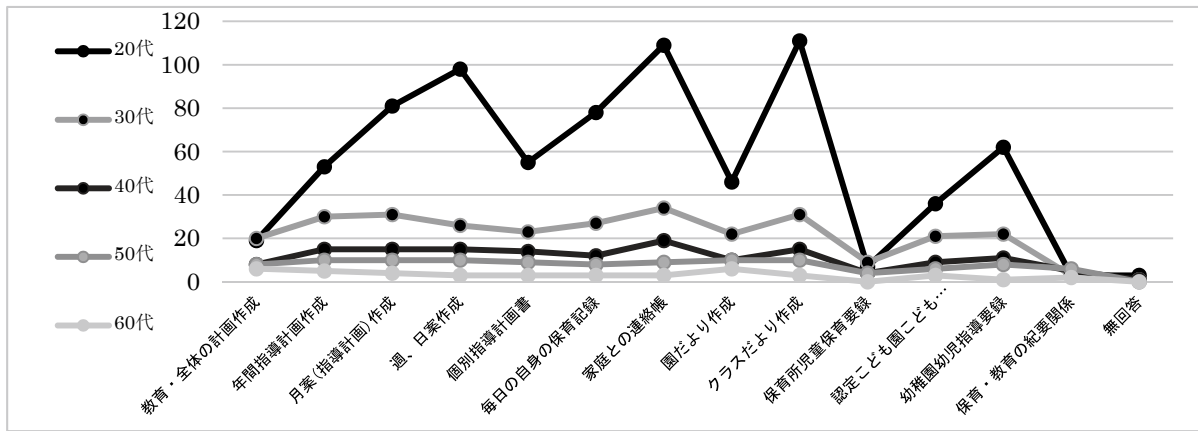


20代保育者は3・4歳児担当が多く、次いで2歳児となっている。自我が発達し言葉を使ったコミュニケーションを楽しみ、人間関係の基盤を作る大切な時期であり、友だちや保育者のあらゆる姿を吸収して育つ。保育者の人間性が子どもの育ちに影響することを忘れてはならない。30代保育者は3・4・5歳児担当が多く、特



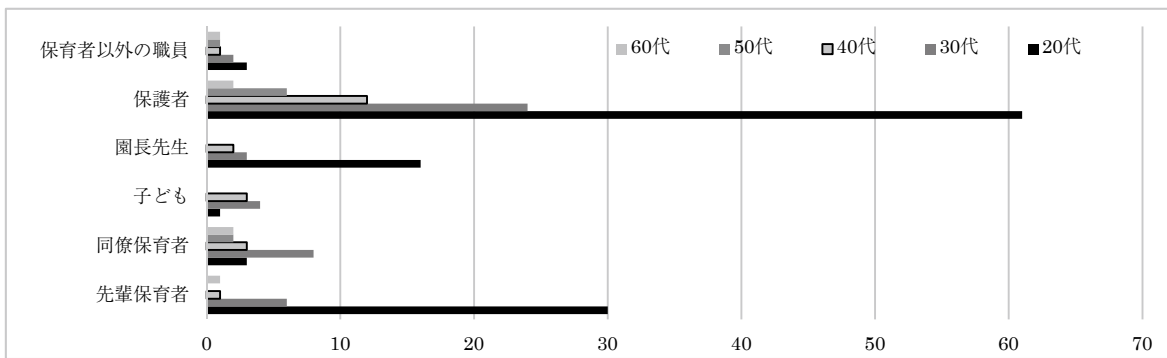
に5歳児担当は30代が20代を上回っている。子どもの思考力が育ち、表現力も増してくる年長児担当は、園内ではリーダー的な存在の保育者が担当する傾向がみられる。

【④実際に作成や記述に関わっている項目】20代（118）30代（40）40代（22）50代（11）～複数回答可



20代では教育・全体の計画作成と保育所児童保育要録・園だよりが低い。保育所児童保育要録は5歳児担当者が20代に少ない事と研修会への保育所の参加割合が少なかったことに起因。又、クラスだよりは担当保育者が作成することもあり94%が関わっているが、園だよりとなると40%と少なくなる。園だよりは園全体を見通して保護者に園の内容を伝えていくものであり、リーダー的な保育者や主任保育者が担当する場合が多い。教育・全体の計画作成は20%と少ないものの10年前の7%（主に50代）から増えている。又、毎日の保育記録が66%と増えており記録の重要性がかなり認識されてきたことは喜ばしい。この記録を基に是非教育・全体の計画作成や年間指導計画作成に携わって欲しい。

【⑤人間関係で一番難しいと感じているのは】



20代30代の保育者は人間関係で難しさを感じているのは圧倒的に保護者である。保護者の年齢・子育て経験は保育者を上回っていることが多いが、我が子中心となり視野が狭い場合もある。経験豊富な先輩保育者や園長先生が対応にあたることも多いが、園という集団の中での子どもの姿は担当保育者が一番理解している。子どもの育ちを保護者と共有し、共に喜び合える状況が増えると信頼関係も構築されるという点からも④の項目で毎日の保育記録を書く保育者が増えているのはのぞましい。

保育記録は子どもの成長を裏付ける事実であり、保育者は事実を伝えながら子どもが伸びていく方向性を保護者と共に確認できるからである。一方先輩保育者や園長先生との人間関係が難しいという結果を見ると、園内研修等での発言力が低くなるのが危惧され、保育者の思いを伝えきれず、問題解決に対して消極的になってしまうという懸念が生じる。

大分教育大学附属幼稚園研修での保育者アンケート結果では子どもとの関わりが難しいと回答した保育者が一番多く、保育内容研究や保育の環境を通しての子どもの育ちに深く向き合っている姿が見られ、保育者同士や先輩保育者に対する難しさは少なかった。設問の流れも違うことが考えられるが、⑤の項目で「子ども」と

回答した割合が極端に少なかったのが気になる場所である。子ども理解は容易ではなく、主体的な活動を促す保育内容や環境の構成は洞察力とタイミングが難しい。

## V おわりに

前回の改訂（改定）告示後10年を経て、今回の改訂は三法令同時告示となった。筆者は前回の改定時期に初めて養成校の教員として着任し、微力ながら保育課程論（カリキュラム論）を担当してからも筆者を取り巻く環境は大きく変化した。教員免許更新講習開始・平成20年保育所保育指針初めての告示を受け、2年間かけて実施した保育所保育指針研修・その他長崎県私立幼稚園協会の研修・佐世保市幼児教育保育研究会・九州国公立幼稚園、こども園会教育研究大会・キャリアアップ研修などの機会を得て、実践現場の先生方と触れ合うことで、時代の変化を感じながらも授業改善に生かしていく好機を得た。

又、指導助言依頼の際には、園を訪問し環境や子どもの姿に触れるように心掛け、自身の保育観に良い刺激を受けた。園の保育理念や歴史を伝えていただき、園内研修参加の機会も得た。年度初めに緊張して発言の少なかった先生方が、研究発表間近になると饒舌に保育を語る姿を見ることが出来、研究での苦悩を園全体で共有し役割分担し、解決していく過程が貴重であることを再認識した。

専攻科保育専攻は本年度10回生を迎えた。本年度実施の専攻会（同窓会）では、卒業生と在学生在が1対1で保育に対する質問と回答を行い質の高い協議の場となった。インターンシップ記録を2年間続けた卒業生は保育現場でも記録を続けていることがわかった。筆者自身も過去の保育記録を養成校授業内で利用することがあり、子どもと保育者の関係や援助の方法について実践例として紹介しながら考察していく資料とする場合がある。園内研修でも事実としての記録を基に保育者間で考察していくことがポイントとなる。筆者は実践現場の経験が30年程あるが、時代は変化し子どもを取り巻く環境も大きく変わっている。1歳の子どもでもスマートフォンを操作し、子どもの遊びの内容も変化してきている。不易と流行について考えさせられることも多いが、子どもが子ども時代を子どもらしく生きることは後の人生に大きく関わってくる。このことを子どもに関わる人々は忘れてはならない。生涯を通して人は学び続けるが、子どもにとって大きく影響する人的環境としての保育者はどうあるべきかという課題は常に持ちながら、人的環境も含めた園内環境の向上を目指すことが大切であり、その為の土台となる「全体的な計画」は園内研修の欠かせないテーマであると考え。そこから年間・期間・月間・週・日という計画が発生するのである。園なりの創造性も行事も「このような子どもに育て欲しい」という理念のもとに展開されるべきである。そしてそれぞれの保育者が経験や能力を生かして目の前の子どもの姿を捉えた記録を基に活発に論議し、改善しながら生きた「全体的な計画」と位置付けされることを期待し、研究を続けたい。

今年度は養成校の授業を現場の先生方に見ていただく機会を得たが、養成校側も現場の保育参観や現場の先生方との意見交換・協議の機会を増やし、子どもたちの為の保育の資質向上を図りたいと考える。



平成30年2月24日  
第3回 専攻会  
長崎短期大学ペルチにて



【付記】本研究は長崎短期大学平成29年度傾斜配分研究費より助成を受けている

〈引用・参考文献〉3 法令改訂（定）の要点とこれからの保育 チャイルド社：無藤隆 著 2017 初版  
平成 29 年 3 月 31 日告示 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領：全国  
保育士会編 2017  
保育士等キャリアアップ研修ハンドブック 全国保育士会 2017 年 11 月発行  
保育所保育指針解説書 厚生労働省 2018 年 2 月（保育士養成研究所第 3 回研修会資料）  
大分教育大学附属幼稚園保育研究協議会 2018 年 1 月 27 日資料  
長崎県保育所保育指針講習 2009 年保育者対象アンケート調査資料

長崎短期大学研究倫理委員会承認【第 1808 号】